

別紙2 読み方・字解・意解例

(漢字は旧字)

朝辭白帝彩雲間

千里江陵一日還

兩岸猿聲啼不住

輕舟已過萬重山

白帝城 癸卯 雲吉

読み方

(新字体を使用 ふりがなを付ける)

朝に辞す白帝彩雲の間

あしたにじす はくてい さいうんのあいだ

千里の江陵一日に還る

せんりの こうりよう いちじつにかえる

兩岸の猿声啼いて住まず

りようがんの えんせいないてやまず

輕舟已に過ぐ万重の山

けいしゅう すでにすぐ ばんちようのやま

白帝城 ^癸卯 雲吉v

はくていじよう ^きぼう うんきちv

字解

彩雲

朝日に美しくいろどられた雲

朝焼け雲

江陵

現在の湖北省江陵県 荊州とも

いう

白帝城

四川省奉節県にあった古城

意解

朝焼け雲の美しくたなびく白帝城に別れを告げ、千里かなたの江陵まで、たった一日でかえつてきた。その舟の速さはすばらしいもので、兩岸で鳴く猿の声がまだ鳴きやまないうちに、私の乗る舟脚の軽い舟は、すでに幾重にも重なる山の間を通り過ぎてしまった。

作者

奈良 太郎 (雅号) 雲吉

この用紙はA4判で作ってください。